

原発の推進と防衛費の倍増★ 矛盾する政策、だれのため



★ 危機にさらされ続けるウクライナの原発 「原発は、国民に向けた核兵器」

11月23日、ロシア軍の大規模なミサイル攻撃で、ウクライナ各地の電力設備が破壊され、全土が一時停電しました。病院の電気も止まり、冬の寒さの中、住民は命の危険にさらされました。4ヶ所ある原子力発電所は、外部との電気のやり取りがしゃ断され、停止中の「ザポリージャ原発」では非常用発電機が起動しました。

ウクライナは、原子力発電（4ヶ所 15基の原子炉）で、電力の約半分をまかっています。戦争が始まり、ロシア軍が占拠した「ザポリージャ原発」の敷地内には砲弾が打ち込まれ、「南ウクライナ原発」にも、原子炉近くにミサイルが打ち込まれています。15基もの原子炉がある国が戦場となったことで、攻撃された原発が大災害を起こす危険が続いています。「原発は国民に向けた核兵器」（小泉純一郎元首相の言）なのです。

★ 解決できないことばかり、、、 議論なしで原発推進へ転換

岸田政権は今年8月、「原発にできるだけ頼らない」との方針を投げ捨て、突然に原発推進を打ち出しました。11月末には、防衛費の倍増と同時に、新しい原発への建て替えも含んだ計画案を提示しています。軍事的な紛争で狙われれば、攻撃に耐えられない原

全造船関東地協労働組合

一人でも誰でも入れる労働組合 **よこはまシティユニオン**

横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505 TEL&FAX 045-575-1948 ホムページ <http://yuniyoko.sakura.ne.jp> 【2022年12月11日】

発電や原子力施設をたくさん抱えたまま、軍事力を増強する矛盾。ばく大な費用と時間で事業として成り立たない新型原発。バクチに近い60年以上の老朽原発の稼働。新しい原発に建て替えようにも、廃炉にした原子炉の解体・保管すら目処がたたない核廃棄物の処理、などなど。解決できない問題が数限りなくありながら、何の議論もなく原発推進へ転換しようとする暴挙です。

燃料高、円安ではね上がる？ 電力料金 原発を再稼働させれば解決するのか？

原油や天然ガスの高騰・円安を理由に、大手の電力会社は、規制されている料金を大幅に値上げしようとしています。ウクライナの戦争でエネルギー不足が続く、と不安もかき立てられます。でも、原発を動かすことで乗り切れるのでしょうか？

原発は、一基でも巨大な発電設備です。事故や故障、地震などで急に（時には一斉に）あるいは何年もの長期間止まったりします。そのため、原発を動かすには相応の火力発電の設備と燃料をバックアップに確保しなければなりません。また、燃料となるウランの確保も、使用済み核燃料の再処理も、MOX燃料（ウランとプルトニウムを混ぜた燃料）を作るのも、イギリスやフランスなど遠い海外に頼っています。原発の再稼働は、エネルギーの自給にはつながりません。しかも、10万年といわれる核廃棄物の最終処分にとどれだけ費用がかかるのか想像することもできません。

太陽光も風も地熱も波も、自然エネルギーこそ 輸入する必要のない国産エネルギー！

福島第一原発の重大事故から12年近く、原発が全て止ったのに、日本は再生可能な自然エネルギーに変えていく絶好の機会を逃してきました。ドイツが来年には「原発ゼロ」を実現し、ウクライナ戦争による天然ガスの不足も、地熱の利用などで乗り越えようと努力しているのは対照的です。日本が、海外の政治や経済の状況、紛争に振り回されずに、エネルギーを安定的に自給するためには、再生可能な自然エネルギーに転換するしかありません。【組合員N】

■ **故長尾さんの闘いを胸に**

よこはまシティユニオン組合員だった長尾光明さん（故人）は福島第一原発で働き、被ばくが原因で退職後に多発性骨髄腫（血液のガン）を発症し労災認定されました。損害賠償を求めて東京電力を相手に裁判を起こしましたが、東電は労災認定はおろか病名すら否定。裁判所も長尾さんの請求を棄却しました（最高裁2010年4月）。

■ **原発で働く労働者と共に**

原発は電力会社を元請とした4～8次の下請会社で稼働しています。3.11以降、多くの労働者が福島第一原発の収束作業に関わり、被ばくを余儀なくされています。東電福島第一原発の収束・廃炉作業や九電玄海原発の定期検査に従事し、被ばくが原因で白血病になったあらかぶさん（40代男性）は2016年11月22日に東京電力と九州電力を相手に損害賠償を求めて提訴し闘っています。ぜひ多くの皆さまのご支援をお願いします。

■ **職場の問題、いつでもご相談を！**

東日本大震災や原発事故を忘れないため、私たちが毎月11日に街頭宣伝活動を始めて11年目になります。これからも、何ができるのかを一緒に考えたいと思います。「福島どころじゃない」「自分の仕事と生活が大変」という方もいるでしょう。そんなあなたこそ、あきらめる前に一度ぜひ職場の問題をユニオンに寄せてください。一緒に解決しましょう！